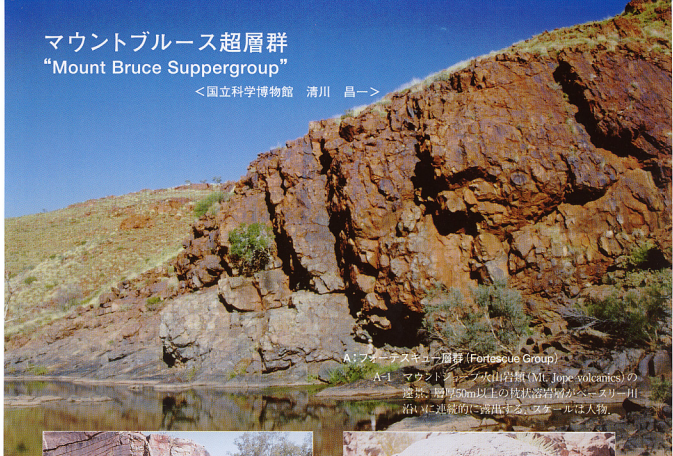


マウントブルース超層群 “Mount Bruce Suppergroup”

<国立科学博物館 清川 昌一>



A:フォーテスキュー層群 (Fortescue Group)

A-1 マウントジョーブ火山岩類 (Mt. Jope volcanics) の
遠景。増厚50m以上の枕状溶岩層がベースリー川
沿いに連続的に露出する。スケールは人物。



A-2 コマチャイト溶岩。1枚の厚さは5-10m、それぞれ
冷却ジョイントが発達する。



A-3 コマチャイト溶岩中に発達するオセリー (Ocelli) 構
造。色、大きさともに中華料理のピータンに似る。



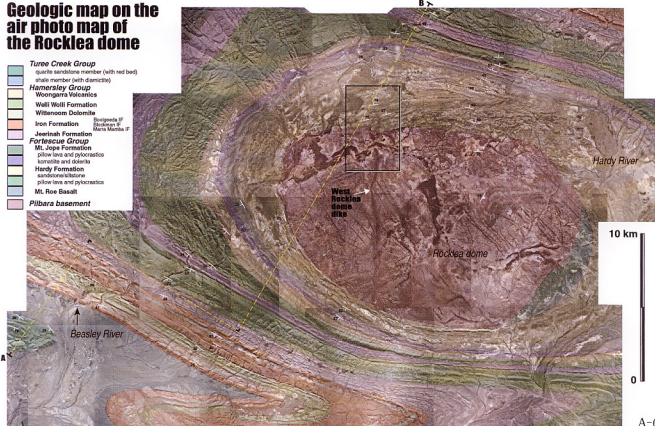
A-4 ハイアロクラスタイト。爆発によって飛び散った枕
状溶岩の断片が巻き込まれている。



A-5 ハーディー層中に発達するタブラー型斜交層理。
古流行は左(東)から右(西)を示す。

Geologic map on the air photo map of the Rocklea dome

- Turee Creek Group**
quartzite sandstone member (with red bed)
shale member (with diamictite)
- Hammersley Group**
Woongarra Volcanics
- Welli Welli Formation
- Willeroo Dolomite
- Iron Formation
- Jeerinah Formation
- Fortescue Group**
Mt. Dope Formation
pillow lava and pyroclastics
konatite and diatrite
- Hardy Formation**
sandstone/siltstone
pillow lava and pyroclastics
- Mt. Roe Basalt
- Pilbara basement



A-6

- A-6 ↑ 南ビルバラ、ロックリドーム地域の航空写真上の地質図合成図。ベズリー川はマウントブルース超層群を横断して流れ、そこでは地層断面を連続的に観察できる。西ロックリドーム岩脈はハーディー層に熱水変質を及ぼすフォーテスキュー層群のフィーダー岩脈である。(囲みは本文中の第4図)
- A-7 → 北から眺めた西ロックリドーム岩脈の遠景。原生代の岩脈より侵食されて、地形的には緩やかな丘をつくる。岩脈幅は約200m。遠方に見える丘はドーム南翼の縞状鉄鉱層。
- A-8 ↓ 岩脈貫入地域のハーディー層内に分布する変質帯鉄鉱石脈。ハーディー層は粘土鉱物化しており地形的に平らになる。熱水起源の鉄を多く含む脈が一面に発達する。
- A-9 ↘ 鉄鉱石脈の拡大図。周りは黄色く変質した粘土層になる。



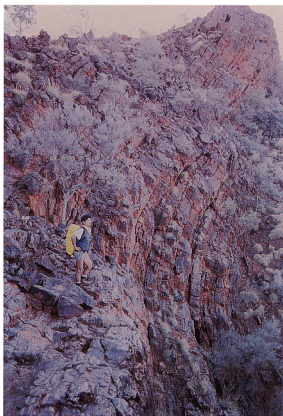
A-7



A-8



A-9



B-1 ブロックマン縞状鉄鉱層全景、地層の重みによって地層が急傾斜し、上部はオーバーハングしている。



B-2 ブロックマン縞状鉄鉱層、白色(チャート)、褐色(鉄鉱層)の細かいラミナがリズムカルに繰り返す。



B-3 下部マラマンバ縞状鉄鉱層、鉄鉱層のシマシマが不規則で、鈍物的な部分が多い、チャート層はブーディン状になっている。



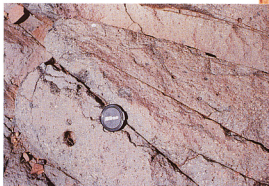
B-4 上部マラマンバ縞状鉄鉱層、鉄鉱層と黄色いシルト(ゲーサイト化)層が規則的に繰り返す、右側が下位



B-5 ブーゲーダ縞状鉄鉱層、チャート層が少なく、ほとんど鉄層からなり、部分的に赤いチャートバンドを挟む。



B-7 上部ウンガラ火山岩類(写真下位)とブーゲーダ縞状鉄鉱層(写真上位)、ウンガラ火山岩類には柱状節理が発達する。また、両者の間には緑色珪質頁岩層が20mにわたって分布する(低木のある部分)。



B-6 ウンガラデーサイト、ガラス質粒子のつぶれてできたフィアメ(fiamme)などの溶結組織がみられ、爆発的火山活動でできた火山砕屑物であることがわかる。



C-1 ウェーブリップルが残る赤色砂岩層。

C: チューリークreek層群 (Turee Creek Group)

C-2 クロスベッドが発達する赤色砂岩。表層部ほど赤くっており、当時の表層部分は酸化的であったことがわかる。



(関連: 本文7ページ)